

令和4年度 描画部門実績報告

1. 今年度事業の報告及び反省

今年度の児童文化展描画部門では最後の展示・撤去まで滞りなく実施出来た。審査会では例年、各学年30点を選出だったものを、30点以内とし、無理に選出しない形に変更した。以下に審査講評を抜粋する。

【小学校低学年】

- ・主題が明るく鮮やかな色で表現してある作品が多かった。
- ・パスの混色や重色が指導が行き過ぎて、くすんでしまってる作品が見られた。
- ・のびのびとした動きのある作品が例年より少なく感じた。(パスの線が直線的で固い等)
- ・題材が同じ作品が多かった。

【小学校中学年】

- ・3年生は水彩絵の具の基礎を学ぶ大切な学年・・・色が濁っている作品が見られた。
- ・水の加減が不十分な作品が見られた。(水が少なく油絵のような作品、水が多く色が薄すぎる等)
- ・画用紙の上で何度も筆でこすってあり、表面が荒れている作品が見られた。
- ・背景処理に差が見られた。
- ・題材に偏りが見られた。(リコーダーの作品が約20点)
- ・人物をしっかり描いている作品が多かった反面、アニメのような作品も見られた。(目が異常に大きい、下描きの線が太すぎる等)

【小学校高学年】

- ・色が薄い作品が多かった。時数の問題もあると思うが、その中でも陰影や遠近感をしっかり表現してある作品も見られた。
- ・下描きの段階で入れる基準線が残っている作品があった。(しっかり消す)
- ・着色していない白い部分がある作品があった。(白い部分も白系統で着色する)
- ・人物画も出品されていたが、高学年らしい陰影の付け方や服のしわの等、よりリアルな質感や立体感などの表現がほしかった。配色が美しかっただけに残念だった。
- ・過去の作品にないような構図の工夫が見られる作品が多かった。(見上げる視点、見下ろす視点、画面の切り取り方等)

【中学1年生】

- ・題材の選び方に課題がある。「何を描きたい!」をもっと欲しい。
- ・校内の風景だけではもったいない。
- ・紫の使い方がきれいだった。積極的にチャレンジさせてみてもよい。
- ・インパクトの強い、ファンタジーのような作品も見られた。

【中学2年生】

- ・金色や銀色が使っている作品があった。使わないように指導する。
- ・自画像では大胆な構図に挑戦していた。

【中学3年生】

- ・輪郭線を囲んである作品があった。囲まないように指導する。
- ・技巧的な作品が多く見られた。黒をうまく使っている作品もあったが指導は難しい。

○審査会はスムーズに進んだ。点検作業も協力して手際よく行うことができた。

▲名簿の間違いがいくつかあり電話確認をした。間違いのない名簿からコピーしてほしい。

▲タテ・ヨコが分からない作品があった。要項をちゃんと読んでほしい。

2. 次年度への指向

◇要項の作成、また周知を行う際において次の事に留意しておく。

- ①名簿データの作成においては、必ず間違いのない名簿データをコピー&ペーストして使うようにしてもらうよう、要項に加えておく。
- ②出品前に、担当者が氏名の確認を念入りに行うよう依頼する。
- ③要項をしっかりと見てもらう工夫をして、作品展示の際、不明点がないようにしてもらう。

3. これからの児童文化行事の（各部門行事）のあり方について

中学校で1年から3年まで風景画制作を行うのは、時数の問題で非常に厳しい面がある。これまでの流れで天草の中学校は児童文化展に向けて特に風景画に力を入れてきたが、現在は要綱の範囲内で様々な題材に取り組む事ができるようにしており、自画像を中心に意欲的な作品が見られるようになった。

また、今年度の審査会から、例年、各学年30点を選出だったものを30点以内とし、無理に選出しない形に変更したが、特に小学校では実際の作品数に応じた審査が出来るようになった。中学校では結果的に30点ずつ選出したが、今後はこの変更に従い、無理のない選出を行っていくことになるだろうと思われる。